

# CLINICAL CONFERENCE

## 症例から学ぶ 上部消化器疾患

連載

第33回

### 胃 inflammatory fibroid polyp の 1 例

石井克憲\*1 春間 賢\*1 末廣満彦\*1 勝又 諒\*1 谷川朋弘\*1  
浦田矩代\*1 河本博文\*1 藤田 穰\*2 綾木麻紀\*2 眞部紀明\*2  
鎌田智有\*3 物部泰昌\*4

川崎医科大学総合医療センター総合内科2\*1

川崎医科大学総合医療センター超音波・内視鏡センター\*2

川崎医科大学健康管理学\*3

川崎医科大学病理学\*4

#### 1. はじめに

胃 inflammatory fibroid polyp (IFP) は消化管に発生する比較的稀な間葉系の腫瘍であり、一般には何らかの刺激に対する反応性病変で、非腫瘍性疾患と考えられている<sup>1)</sup>。胃では前庭部に好発し、検診のスクリーニング検査で発見されることが多いが、ときに消化管出血や十二指腸への陥頓による急性症状で発見されることもある<sup>2)</sup>。胃IFPは亀頭様の特異な形態を示すことでよく知られているが<sup>3)</sup>、稀に悪性病変を疑わせる形態をとることもある<sup>4)5)</sup>。最近、*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 感染との関連<sup>6)</sup>、さらに家族集積を認める症例があることから<sup>7)</sup>、platelet-derived growth factor receptor alpha (*PDGFRA*) gene の遺伝子異常が指摘され<sup>8)</sup>、腫瘍性病変としても捉えられている疾患である。

今回、胃前庭部に発生したIFP症例を提示し、IFPについての最近の話題を概説する。